

万石浦における津波による 藻場と干潟の被害状況

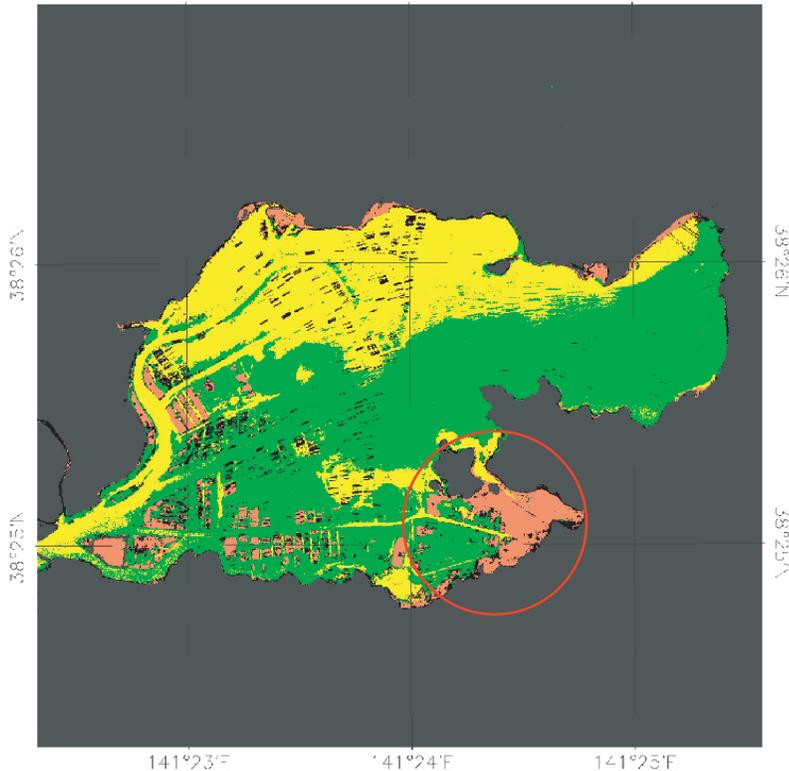
(財) 環日本海環境協力センター
東京大学 大気海洋研究所



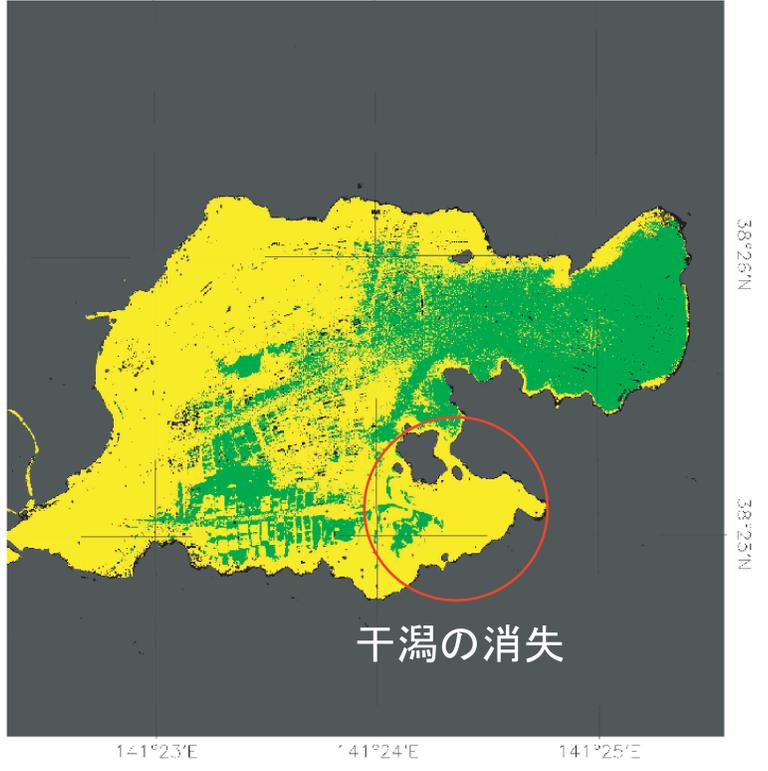
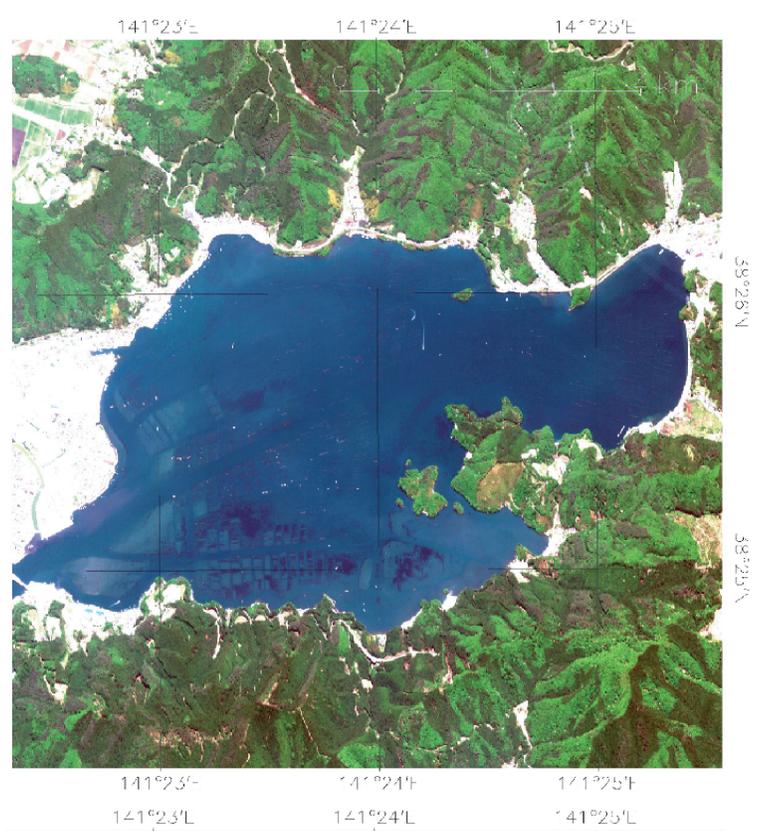
万石浦は、湾口幅0.46 km、面積7.4 km²、湾内最大水深3.9 mの閉鎖性内湾であり、日本の重要湿地に選定されています。また、カキやノリの養殖が盛んで、特にカキ養殖の種苗は全国に供給されています。

2011年3月11日に起きた東日本大震災と津波によって、万石浦の藻場や干潟がどのように変化したかを明らかにするために、震災前後の人工衛星画像を解析しました。

震災前2009年6月25日



震災後2011年5月25日



藻場
 砂・泥
 干潟
 陸・養殖筏
 影

万石浦における震災前の2009年6月25日の画像では、藻場と干潟の面積がそれぞれ369 haおよび55 haと推定されました。一方、震災後の2011年5月25日の画像では、藻場と干潟がそれぞれ224 haおよび0 haになりました。藻場では145 haの減少が確認され、干潟は全く見られなくなりました。地震による地盤沈下によって地面が0.8 m程下がったことが、浅海に広がっていた干潟消失の要因と考えられます。